と受け止め前へ

第4クオーター7分、リバウ
ブレックスアリーナ宇都宮、

スポット

第2Qから出場した田臥勇太は「相手に激しい守備からリズムをつくられてしまった」と唇をかむ。張り付くような1対1やボールへの素早い寄せを前に、序盤で見せたパス回しは影を潜めた。

自分たちのプレーができないもどかしさは焦りとなってシュート感覚を狂わせ、戸惑いはいら立ちに変わる。1度乱れた精神状態を立て直すのは容易ではなかった。

平日夜にもかかわらずファン3700人以上が来場し最後まで後押し。その中で今季最長の10分強を激しくプレーし続けた田臥は「点差関係なく戦うのは当然のこと」。副主将の渡辺裕規も「次につながるように戦い続けよう」とベンチから鼓舞し懸命に前を向き続けた。

各チーム序盤の9試合を終え、リーグは3週間の中断期間に入る。「一人一人が負けを直剣に受け止め、向き合うこと」と田臥。ここから再び走り出すことができるか。王者は早くも大きな岐路を迎えている。（小玉義敬）

障スポに懸ける　とちぎ大会選手紹介（上）

ーツ大会「いちご一会とちぎ大会」（障スポ）が、29日に禍による延期、中止を経て4年ぶりの開催となる障スポに県選手が出場する。積み重ねた努力や大舞台に懸ける意気

42年ぶり出場 頂点目指す

視覚・グランドソフトボール 山川 典利

42年前の悔しさを晴らす大舞台を迎える。監督など指導者の立場で、ではない。再び現役の選手として。

視覚障害者の野球「グランドソフトボール」県代表の山川典利（65）＝千生町。県勢298人の中で唯一、障スポ前身の全国身体障害者スポーツ大会「栃の葉大会」へ出場した。

準決勝の徳島戦。同点の最終回2死で全盲打者に適時内野安打を許し、2−3で敗れた。

外野にいて「風が強く、枯れ葉がガサガサして聞こえにくかった」のを覚えている。音は要だ。

1チーム10人で戦う。捕手が手をたたく音を合図に投手がハンドボール大の球を転がし、音を頼りに打者はバットを振り、野手もボールをさばく。走塁と守備用ベースが分かれ、全盲の野手は、ゴロでも捕球できればアウトを取れるなど独自のルールが競技の魅力を高める。

先天性の全盲である山川は15歳のころ、競技に熱中する盲学校の先輩たちに憧れ仲間に入った。「バットの芯にボールが当たる気持ち良さ」に夢中になった。

障スポの県代表は20〜70代の15人。直接は見えない「一番輝くメダル」を目指し、流れを呼び込む一打で勝利を引き寄せる。

打撃練習を繰り返す山川

矢板CCが連覇

2位那須CCに9打差

ゴルフ　県クラブ対抗

県内トップアマが所属ゴルフ場の名誉を懸けて争う「第3回県クラブ対抗競技大会」（県ゴルフ場協議会、県ゴルフ場支配人会主催）が26日、栃木市の都賀CC（パー72）で行われ、矢板CCが376で連覇を飾った。那須CCが9打差の2位、3位には390であさひヶ丘CCが食い込んだ。

大会は「県ゴルフ振興基金」を活用して開催。各チームはAクラス（1952年生まれまで）、Bクラス（62年生まれまで）、Cクラス（20歳以上）各2人の計6人でチームを編成し、上位5人の合計スコアで争った。33クラブ、197人が参加。やや風が強く吹く中、熱戦を展開した。

矢板はBクラスの和光利一が2アンダー70とチームを引っ張った。Cクラスの張田巧と後藤貴浩が75、Bクラスの大島洋司も75と4人が70台をマーク。5人の平均75・2という強さを発揮した。

2位の那須CCは若手のCクラスで室井真二が74、本澤篤が76とチームを引っ張った。

前年12位のあさひヶ丘CCは、Aクラスでベストグロスに輝いた佐藤則夫など3人が、70台をマークして、3位に躍進した。

第1回大会2位、昨年3位の鹿沼72CCは9位、第1回優勝で昨年2位のアローエースGCは10位と振るわなかった。

◇団体　①矢板CC（熊耳邦男、野中克也、和光利一、大島洋司、後藤貴浩、張田巧）376②那須CC（高久弘、大森政男、塩田勝、常盤一美、室井真二、本澤篤）385③あさひヶ丘CC（佐藤則夫、内藤昭、持田清之、坂巻雅彦、根津博嗣、佐々木康）390④都賀CC（寺内眞平、小川誠、毛塚政実、澤辺彰、本島博久、中村浩之助）395⑤ディアレイクCC（辻四郎、野口茂、江連秀樹、寺澤洋、高村敏行、稲葉勝美）396⑥塩原CC（鈴木英利、緑川文雄、中島正、前田智、橋本和彦、中井和彦）398⑦NSAJ（飯田晋吾、小野進、柏木豪、岡田明良、渡辺克彦、小山伸明）402⑧日光CC（戸祭康夫、若林新平、手塚幹雄、与倉博逸、豊田崇志、原正晃）402⑨鹿沼72CC（大福根孝司、坂本茂、村山周一、柏崎啓、児矢野政勝、松本和也）402⑩アローエースGC（磯誠一、竹迫清人、舟岡誠、武田幸雄、篠原三茂、田崎俊一）403⑪鹿沼CC404⑫ハーモニーヒルズGC407⑬鷹GC408⑭烏山城CC408⑮鹿沼プレミアGC408

◇個人　▽Aクラス　①佐藤則夫（あさひヶ丘CC）74　②辻四郎（ディアレイクCC）74（37、37）③磯誠一（アローエースGC）76（39、37）▽Bクラス　①和光利一（矢板CC）70（36、34）②村山周一（鹿沼72CC）73（38、35）③中島正（塩原CC）73（36、37）▽Cクラス　①広島慎太郎（鹿沼CC）74（37、37）②室井真二（那須CC）74（35、39）③後藤貴浩（矢板CC）75（39、36）（※同スコアは大会規定による）

2位の那須CC

3位のあさひヶ丘CC

佐藤則夫

和光利一

広島慎太郎

若手活躍に目細める

○…那須CCが昨年の9位からジャンプアップして2位。キャプテンの高久弘は「若手が頑張ってくれた」と、74の室井真二、76の本澤篤の活躍に目を細めた。

逆に県知事盃グランドシニアの部優勝2度の高久、同シニアの部を制している大森政男のAクラス勢はやや振るわず、「こんなもの」と笑った。

高久は「優勝しなければ駄目だが、3位の予定が2位。楽しみは来年にとっておく」とさらなる躍進を誓っていた。

ディアレイクCC・辻四郎（74歳で74。エージシュート達成で特別表彰を受ける）「4回目だが、大きな大会で達成できて満足している」

鹿沼CC・広島慎太郎（Cクラス、74でベスグロに輝く）「張田巧、後藤貴浩両選手の上というのが大満足。県ミッドアマも頑張る」

矢板CCの強さがひときわ光った。野中克也キャプテンも「（連覇が）できるかもしれないとは思っていたが、いざ達成するとうれしいものですね」と昨年の3打差を大きく上回る9打差の優勝に満足そう。

昨年のけん引者はCクラスの張田巧だったが、今回はBクラスで61歳の和光利一。後半の東では4バーディーを奪う快進撃で34をマークし、トータルも70で参加179選手で唯一アンダーパーをたたき出した。

「悔しいミスもあったが、この仕上がったグリーンでの2アンダーは満足。なによりチームに貢献できたのがうれしい」と満面の笑み。

Cクラスの張田、後藤貴浩の両知事盃王者の安定感もさすが。大きくチームに貢献した。Bクラスの大島洋司も75で大活躍だ。

宇都宮CCが舞台となった昨年は377ストロークで5人の平均は75・4。今回は難しいグリーン設定にもかかわらず、376と1打少ない75・2とした。メンバーの顔ぶれは2大会不動だが、毎年けん引者が替わる。

野中は「当然3連覇は目指したい。でも、戦力アップの選択肢もある。追われる立場はつらいが、チーム力をあげて臨む」とボルテージを上げた。（井上孝男）

ハイライト

矢板CC 和光、2アンダーで貢献

2連覇を飾り松本県ゴルフ場協議会会長（左から3人目）から優勝カップを受け取る矢板CCの野中キャプテン＝都賀CC

ハーフタイムに登場した車いすバスケットボール選手の高松＝ブレックスアリーナ宇都宮

Bリーグ1

	勝	敗		
▽東地区				
①千葉J	7	2	103	98
②A東京	6	3	32	34
③群馬	6	3	26	22
④秋田	4	5	21	22
⑤茨城	4	5	24	31
⑥ブレックス	3	6	22	19
⑦仙台	3	6		
⑧北海道	3	6		
▽中地区				
①三遠	6	2	85	61
②川崎	5	3	25	24
③SR渋谷	5	3	16	17
④信州	4	4	25	12
⑤三河	3	5	1	4
⑥横浜BC	2	6	7	5
⑦富山	2	6	1	4
⑧新潟	1	7	1	5
▽西地区				
①広島	7	2	名古屋D	京都
②名古屋D	7	2	85	61
③琉球	7	2		
④島根	7	2		
⑤FE名古屋	5	4		
⑥京都	4	5		
⑦大阪	4	5		
⑧滋賀	3	6		

州チャンピオンズリーグ（CL）は25日、各地で1次リーグ第5戦が行われ、H組のパリ・サンジェルマン（フランス）はペ、ネイマールの三大スターが絡み、華々しいゴールラッシュを演じた。

3トップは前半からエンジン全開だった。19分できれば、このような試合になる」と誇った。

白鷗大大塚らベストナイン

関甲新学生野球

関甲新学生野球連盟は26日、秋季1部リーグのベストナインを発表し、本県から3選手が選ばれた。白鷗大の大塚璃音（青藍泰斗）は作春の三塁手部門に続き、今回は遊撃手で受賞。同大の千葉蓮（宮城・仙台育英）は二塁手、作新学院大の内藤元基（栃木工）は外野手でそれぞれ初受賞した。

スポーツ短信

■貴景勝「優勝して来年迎えたい」　大相撲の大関貴景勝が26日、東京都板橋区の常盤山部屋での稽古後に取材に応じ、一年納めの九州場所（11月13日初日・福岡国際センター）に向け「特に今場所ということはないが、できれば優勝して来年を迎えたい」と2年ぶりの賜杯獲得に意欲を示した。2場所連続で2桁勝利を挙げるなど、最近は不振が目立つ大関陣の中で踏ん張っている。

■京口が練習公開「気を抜かずに」　世界ボクシング協会（WBA）ライトフライ級スーパー王者の京口紘人（ワタナベ）が26日、世界ボクシング評議会（WBC）同級王者の寺地拳四朗（BMB）との王座統一戦（11月1日・さいたまスーパーアリーナ）へ向けた練習を東京都内で公開し「ここまで緊張感を持ってやってこられた。最後まで気を抜かずに臨む」と引き締まった表情で話した。スパーリングは100ラウンドをこなして既に終了した。

お断り　企画「経験を未来へ」は休みました。